

主するに 安保御くお糸の命を頼りし所望多近
 取て皆老同穴の契満ふべし而安保御より
 此瓶乞とて前方野半方野とりし二場の谷地
 血河多屋へもとれけり村老の物語より伝之毛を
 血河平地飛入全月ふりて半方野とりし者別
 半豆の爲とて

血河八愆宮來由之事

支那の農村生活の調査と記録

神明の御記とて書し置けるに所々の氏神
よりけり縁起ともなくしてめづる事と
いふは、古きよりいふ事と知らず只今迄と八幡や
さくらなどありしに縁起の日々たること十五日よりあぐ
又武士多し事あること遠近の村屋の産女なる
事多し故に此神の縁起を尋ねく人ぞ少
なりやうもしく一日とて或時同國新江とい
ふ處に入湯の爲に玉とて城より宿へ主の物語よき
日七所の神社といふ社あり此神の縁起とてよく